

4-(1)-⑩ 教育力向上の取り組みの概要

区分	機能
第1回 学内研修会	<p>平成26年6月4日「FDカフェ・アクティブラーニングを考える」の開催 学生が主体的に学ぶための授業での取り組みであるアクティブラーニングについて教員が理解し考えるための研修会を実施しました。アクティブラーニングとは何か、具体的にどのようにすればよいのか、教員個々人の考えやアイデア、抱える問題を、雑談も交えながら共有し、FDの幅を広げる交流の機会としました。 参加教職員:31名</p>
第2回 学内研修会	<p>平成26年8月28日 SD研修会 大学の教育力の向上には職員の能力向上も重要な要素です。大学改革のアイデア創出についてのワークと、大学が取り組むべき改革の方向、課題、教育の質の転換などについて理解を深めました。 参加職員:45名</p>
第3回 学内研修会	<p>平成26年9月18日「アクティブラーニングを考える」 樋栄ひかる氏を講師に、学生が意欲的に学ぶ、能動的に学修する姿勢を身に付けるきっかけづくりについて、ワークショップを通して学びました。 参加教員:22名</p>
第4回 学内研修会	<p>平成26年11月26日「ディプロマポリシーにおける能力評価の方法について」 本学生が身に付けるべきと掲げた力で、“人間関係形成力”および“社会性”を、どのように付けさせ、それらの評価や成果をどう判断していくか、プロジェクト型演習やグループワークでの評価方法についてその評価の視点やアイデアを交換、共有しながら向上を図ります。 参加教員:33名</p>
第5回 学内研修会	<p>平成27年3月11日「教育力向上プログラム」 本学教員の教育力向上を目指して、学生をアクティブラーナーに変換するを目標に、大学初年次の意識付となるような授業内容として、それぞれの授業に活かせる手法やアイデアについて意見交換しました。 参加教員:23名</p>
授業評価アンケート	<p>平成26年度「授業評価アンケート」を実施 開講した全科目について、受講学生による授業に対するアンケートを実施し、授業改善にむけて担当教員へのフィードバックと授業内容向上にむけたFD活動への展開などに活用しました。 前期開講551科目(644科目中85.6%)、述べ15,933名(全受講者中79.1%)から、後期開講524科目(581科目中90.2%)、述べ12,747名(全受講者中74.3%)から回答を得ました。</p>

<p>学修・生活アンケート</p>	<p>平成27年1月「学修・生活アンケート」を実施 本学学生の、学習への意欲、学生としての意識、生活状況等を把握し、教育内容や学習環境、学生生活の改善を図るためにアンケートを実施しました。調査は、本学生専用の学内学修WEBサイトでの回答システムを活用し、1,611名(全学生の68.9%)から50項目への回答を得て、改善活動に活かしています。</p>
<p>TA(ティーチング・アシスタント)の活用</p>	<p>平成26年度実施授業でTAを活用した指導の充実 大学院生をTA(ティーチングアシスタント)=教育補助員として学部授業に配置し、指導・助言者を複数にすることで、より手厚く充実した授業運営を行っています。 TA配置科目:65科目(述べ) TA任用数:106名(述べ)</p>
<p>FDネットワークつばさ</p>	<p>東日本に所在する国公私立大学で組織・連携する“FDネットワーク“つばさ”に参加し、授業改善、カリキュラム・教育制度改革などについて取り組んでいます。</p>
<p>教務事務の改善</p>	<p>宮城県地区私立大学教務事務研究協議会(15大学・短大で組織)に参加し、カリキュラム・学生支援・関係法令改正対応などについて、教務、学生支援、進路支援等を担当する職員が毎年定期的に研究協議を重ねています。</p>